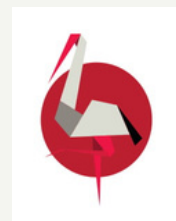


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年11月8日 / Vol. 026



10月31日(月)～11月06日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



食材支援に参加している家族から支援のお礼にキャンバスを頂いた。
イラストにはウクライナと日本・ポーランドの末長い友好の願いが込められており、裏面にはARIGATOUと書かれている。

ご支援総額

2022年11月02日までの寄付総額 106,568,743 円

寄付金使用総額 2785824.11 zł (約8079万円)

10/31(月)～11/06(日)の期間中の寄附金使用額

39182.50 zł (約114万円)

活動内容



支援所への支援物資提供

カリタス支援所とPeron4支援所へ、週に1度の支援物資の買い出し支援を実施。

購入品はどちらの支援所でも配布用物資として用途ごとに分けられ、避難民のニーズに応じて配られている。



レストランプロジェクト

市内レストラン2店舗と協力し、1週間で約530食を提供。

写真(左)は、先週視察した避難民親子26名が滞在する支援所のスタッフへ、月100食分のクーポンを提供した際のもの。同支援所は新たに20名以上の避難民を受入れ予定であり、物資も食事も足りていない状況だという。

12月の一ヶ月間、レストランでの食事の提供数を調整し、調整分を上記支援所に食事配達する予定。



食材支援（毎週金曜日）

31家族に1週間分の昼食用食材を提供。一人あたり50złの予算を設け、合計で4636.87 zł（約135,000円）分の食材を購入。

家族で食材支援に参加する家庭が多く、積極的に買い物の手伝いをする子どもの姿が多く見られた。

とある参加家族から、「心ばかりのお礼です。」と、ウクライナ料理 Wytoczki（ヴィトチュキ - 鶏肉を葱とニンニクで焼いたもの）を頂いた。





現地の動向

2月の侵攻以降、ウクライナ避難民を中心に、ポーランド各地であらゆる反戦運動が行われている。

クラクフ市内中心部においても、毎日のようにウクライナ国旗を掲げ、ウクライナの現状を訴える集会が行われている。

そんな中で、ポーランド外務省が主導となり“子ども目線の戦争”を題材に、子どもが戦争を描いたイラストを展示するエキシビションが開催された。

展示会のタイトルは「ママ、戦争はいやだよ! (Mamo, ja nie chcę wojny!)」と題され、1946年の第二次世界大戦下のポーランドの子どもたちが描いたイラストと、現在のウクライナの子どもたちが描いたイラストを展示している。

この展示会には、戦争はいつの時代も同じであり、その被害者はいつも子どもたちである、というメッセージが込められている。

第一回目の展示会が7月に実施されて以降、順次ポーランド国内で公開され、現在はポーランドの7都市で展示会が実施されており、今後、日本での公開も予定されている。



写真は、福田会スタッフが支援所を訪れた際に壁に貼られていた子どもたちの絵。故郷への思いや、ウクライナに残る父親、戦車に立ち向かうウクライナなどが描かれており、子どもたちの心情が伝わってくる。

戦争で傷付いた子どもたちの心を癒すための支援も重要視されている。

各支援所では、子どもの好きなお菓子を取り揃えたり、風船やしゃぼん玉を使ってパフォーマンスをしたりと、子どものための支援活動も頻繁に実施している。

